

学校教育の再生に向けて（教育再生第 2 弾）

ゆとり教育の見直しの方向性について（その 2）（たたき台の続き）

～ 知徳体調和の取れた人間形成を目指して～

学校教育の再生のためには、学力の向上が急務の課題

しかし、学力だけでなく知徳体調和の取れた人間形成に向けて、徳育の充実が必要

1 徳育の推進 教科としての「徳育」の新設

教育再生会議は、第一次報告ですべての子供に規範を教え、社会人としての基本を徹底することを提言してきた。又、社会人として最低限必要な決まりをきちんと教えることを提言している。

教育基本法の改正を踏まえ、世界に開かれた豊かな情操と道徳心を培うため、徳育を教科として位置づけ、充実した教科書を作成する必要があるのではないか。その際、名称としては「徳育」（仮称）として、小学校、中学校において、新しい教科として「徳育」を設けることを提言したい。

高等学校においても奉仕活動の必修化を提言しているが、徳育の充実のため「人間科」、「人生科」又は「人間と人生」のような科目を新設してはどうか。

「徳育」の充実のためには、読書活動を推進することが重要。

「徳育」の充実のためには、社会総がかりで学校の教育力を高めていくことが重要。

特別免許状の制度を活用し、人生経験の長い優れた地域の社会人や各分野の一流の人材に「徳育」の時間で教壇に立ってもらうことを促進すべき。

（その他）

徳育ではないが、子供たちに民主主義や選挙についての知識やその重要性をきちんと教え、良識ある社会人として参政権をきちんと行使できるように育てることが大切

2 体育、スポーツの充実

知徳体調和のとれた児童生徒の健全な育成の観点からは、体育、スポーツ、健康の増進、芸術文化活動などの重要性を忘れてはならない。

児童生徒が学校において体育、スポーツに親しみ、熱心に取り組むことは健康と体力の観点からも重要である。

現代の子供たちに集団活動、集団生活体験、スポーツなどに積極的に取り組むことの重要性を教えることも重要である。さらに競技力向上を目指し、努力して困難や苦勞を乗り越えて「頑張る」ことも大切だということを教えていく必要があるのではないか。体育やスポーツ、芸術文化に親しみ、楽しく学校生活を送っていくことが重要である。

3 学力の向上について（前回に引き続いての議論）

学力とは何か、再生会議が目指している「学力」はどのようなものかについての議論が必要

学力の向上のためには、学習のモチベーションを高めるとともに、児童生徒が学習する習慣を身に付けることが大切である。基礎基本の反復練習や学校において宿題をしっかりと子供たちに出し、家庭での学習時間を確保していくことも必要である。

わかる授業、楽しい授業、もっと学びたい授業で子供たちの学習へのモチベーションを高めていく。良い意味での競争や頑張る問題解いたり、新しい知識にふれることで学ぶ楽しさを味わい、学ぶ苦しさを克服していく努力も重要ではないか。

読解力の重要性

OECDのPIISA2003でわが国の児童生徒の学力の低下が心配されているのは特に「読解力」である。活字離れや読書離れが指摘される中で、読解力の向上のために何をなすべきかが大切である。

読書活動の推進

朝の十分間の読書活動の推進や家族や先生による「読み聞かせ」、学校図書館の有効利用、新聞の活用など、子供たちが読書に親しみ、本を読み、理解することで新しい自分を発見し新しい知識を身に付け、自らの考えを深めていくことはとても大切である。特に、学校図書館の図書充実や司書教諭の配置、研修の充実が望まれる。

学力の向上のために、土曜日を活用することも考える必要があるのではないか。補充学習や発展学習などで、大学の研究者、地域の人材や企業等の人材を活用して、子供たちの学習のモチベーションを高めていくことが重要。